

「十二人の怒れる男（4人）」リパティ―5月用∥B5

原作…レジナルド・ローズ

上演台本…永妻寛

Bits  
1

1 「これは第一級殺人で有罪の評決を出せば被告は死刑です。有罪、無罪どちらの評決でも全員一致が条件です。では、有罪の人は……」

4以外、拳手。

1、手を挙げていない4を怪訝そうに見て、

「有罪が十一人……」

一同の視線が4に向く。

1 「無罪は？」

4、ゆっくり手を挙げる。

1 「無罪、一人。本当に無罪だと思うんですか？」

4 「解りません」

1 「どういうことですか？」

3 「法廷で聞いたでしょ。あの子は人を殺した（のよ）」

1 「父親の胸を10センチも刺したんです」

2 「証拠は山ほどある」

3 「どうしたいんですか？」

4 「話し合いますよ。私が有罪に投票するとあの子は死刑だ。人の生死を五分で決めて、

評決が間違っていたらどうするんです？ 一時間話し合いますよ」

4、柱時計を差して、

「現在、5時15分ですから、6時15まで、でないと私は無罪を押し通します」

3 「なんて人？ 私は彼の証言から有罪を確信しています。つまりあの子の言葉の中に無罪の証明が一切ない」

4 「有罪こそ証明が必要でしょう」

1 「……みなさん、意見は？」

2 「よし分った、話し合おう！」

Bits  
2

1 「それで？」

4 「被告の少年は悲惨な人生を送って来ています。スラム街に生まれ、九歳で母と死別。父親は文書偽造で服役。その間、彼は福祉施設に預けられていた。彼は不幸な幼年期を過ごしています。少しは彼の事を考えてやっても」

3 「ちょっと待ってよ。人殺しに何を考えてやれって言うの?」

1 「あなたさ、何故彼が無実なのか言って貰えますか?」

2 「目撃者がいる」

3 「そうよ、まずその一つ、下の階に住んでいる老人が夜中の十二時十分に争うような音を聞いている。そして奴(あの子)が『殺してやる』と叫んだ直後に人が倒れる音がした。警察が駆けつけると父親が死んでいた。また十八歳なのは同情するけど罪は償わな  
いと」

1 「向かいのビルの女性の証言が何よりの証拠だと思いますよ。彼女は少年が人を刺すところを窓から見ている」

4 「しかし彼女の部屋は高架鉄道を挟んだ向かいのビルです。その時電車も通過していた」

3 「その車両には『乗客は一人も乗っていないかった』。彼女の部屋から電車の向こうは見え  
ると証明されています」

2

1 「人は動機もなく人を殺さない。少年の隣人たちの証言では、少年と父親は喧嘩していた。大声で。罵り合っていたと。夜の八時頃です」

4 「そうです。二人は口論して父親が少年を二回殴った。そして少年は怒って出て行った  
……」

3 「それが事件の発端ですよ」

Bits  
3

4 「しかし、少年は小さい頃から何度も殴られていて暴力は生活の一部です。たった一回  
殴られたぐらいで殺しますか?」

3 「限度だったかもしれませんが。限度……分かりますね」

2 「奴が犯人に決まってるだろ。前科を見なよ。ひたたくりとナイフの乱闘で施設送りだ。  
(4を論ず様に) ナイフは名人ださうだ」

4 「本気で言ったんでしょうかね」

2 「何を?!」

4 「ですから、本気で父親に『殺してやる』と言ったんでしょうか?」

2 「ああ、本気だ、だから殺した!」

3 「『家庭環境』のせいで事件を犯したとしても犯罪は犯罪です」

1 「スラム街は犯罪の巣です」

2 「スラム街の奴らはクズだよ、社会に必要なはない！」

4 「私もスラムの出身です」

2 「なるほどな?!」

4 「だからといって彼の見方をする訳でもありません。私はただ正しい評決を出したいだけですよ」

一同、黙る。

4 「法廷の六日間の証言を皆さんと一緒に聞いて来ました。しかし、その証言の中に確かな証拠はないと思います。弁護士も十分に反対尋問をしていません。すべてに見逃しが多過ぎます」

3 「質問なんかしたら、余計不利になるからじゃないんですか？」

4 「私なら弁護人を替えます。命がかかっているんだから。検察側の証人を叩きのめして欲しい！ 犯行を見た証人は女性一人だけで、もう一人の老人は声を聞いたとか、人が倒れる音がしたとか、状況証拠だけです。もし、間違っていたら？」

2 「間違える？」

4 「人間は間違えを犯すものだ」

2 「間違つてない」

4 「絶対に？」

2 「絶対なんてあるわけないだろうが！」

4 「(にっこり) そのとおりです」

Bits  
4

2 「(4を睨み) じゃ、肝心な話をしよう。いいか、父親の胸に刺さっていたナイフは少年が犯行の夜に買ったと認めている」

4 「ナイフの証拠写真はここにありませんか？」

1 「用意させます」

1、ドアの所に行つて、係員に何か言っている。

3 「手を挙げて( いいですか」

4 「どうぞ」

3 「では、順に考えましょうよ。父親に何度か殴られて……」

4 「二回」

3 「二回殴られて、午後八時に少年は家を出た。そのまま中古店へ行きナイフを買った。

それは普通のナイフじゃない。柄に珍しい模様があるナイフです。店の主人も『あんなナイフは初めてだ』と言っています。ナイフを買った後、少年は十一時半に映画を観て午前三時十分に帰宅し逮捕された。ナイフは映画へ行く途中で落としたと言っている」

2 「嘘だな」

3 「そう映画館へも行かなかったと思いますね。出演俳優も、題名も覚えていないんだから」

1、ナイフ証拠写真を係員から受け取ると戻って来る。

3 「本当はナイフを買った後、家に戻って、父親を刺し殺し、午前十二時十分に家を出た。

本当にあの子がナイフを落としたと（4に）あんたは信じてるの？」

2 「たまたまそのナイフを拾った人間が少年の家で父親を刺したとでも言うのか？」

4 「誰かが似たナイフで刺したとか……」

2 「まさか？」

1、一同に血の付いたナイフの証拠写真を見せる。

1 「見て下さい……本当に珍しいナイフです」

2 「そんな偶然がある訳ないだろう！」

4 「可能性はありません」

2 「奇跡でも起きない限りない！」

4 「そうですかね」

3 「同じナイフがあるっていうの？」

Bits  
5

4、鞆を一同の前に投げけるように置き、鞆の中をあさる。（鞆の中物がガサガサと音を立てる。）

一同、5を取り囲む。

4、鞆の中から、布に包まれた物を取り出すと、

一同に驚し、丁寧にまかれた布をくるくると剥ぎ、同じ絵柄のナイフを一同に見せる。

一同、騒然。

1、証拠写真とナイフを見比べる。

- 1 「同じだ?」
- 3 「あるじゃない。これ、どこで?」
- 4 「昨夜、少年の家の近くの質屋で買ったんです。二十ドルでした」
- 1 「同じ様なナイフで誰かが父親を刺した?」
- 2 「無い、そんなことはない!」
- 4 「さあ、どうでしょう。現にこうやって同じナイフが目の前にあるじゃないですか」
- 3 「そうね。確率は低いけど、可能性はある」
- 2 「こうなったら評決不能にしようぜ、疲れた。必ず再審で有罪になるさ」
- 2、柱時計を指し、
- 1 「おい、あんたの言った約束の時間だ。さあ、お開きだ!」
- 1 「ちよつと、待って下さい。ナイフの件は?」
- 2 「一晩中ここに居る気かよ?」
- 3 「人の命がかかっているんですよ」
- 2 「ナイフなんかどうでもいいだろ。実際に犯人を見た女性の証人がいるんだ!」
- 3 「そうだった(わ)」
- 4 「……提案があります」
- 1 「何ですか?」
- 4 「もう一度投票しませんか? 私をのぞいて、もちろん無記名で、もし有罪が11なら皆さんに従います」
- 1 「よし、そうしましょう。反対の人はいませんね」
- 2のみ手を上げる。一同の挙手が無いのを見て、
- 「何でもやってくれ!」
- 1 「用紙を配ります……」
- 11人、無記名投票
- 何人かが集めた紙切れを1に渡す。
- 1 「(紙切れの文字を読む) 有罪、有罪、有罪、有罪、有罪、有罪、有罪、有罪、有罪、有罪、有罪、有罪……無罪」
- 2 「誰だ?!」
- 1 「無記名投票に同意したでしょ」
- 2 「(1に) おい、お前だろツ。もともとの不良が環境のせいで犯罪者になったなんて、お

涙ちようだいのお伽噺に乗りやがって!」

1 「なぜ私だと思うんです?」

2 「俺は勘がいいんだよ」

1 「動機もなしに?」

2 「ああ」

1 「たいした勘ですね。皆さん……(手を挙げて) 私です。私が無罪に一票入れました。理由を聞きたくありませんか? 彼(女)は一人で闘った、有罪に確信が持てないからつて……なかなか出来ることじゃない。私には出来ない。その勇気を尊重して、私は無罪に入れたんです。有罪かもしれない……。しかし、もつと話し合うべきですよ。10対2……」

Bits  
6

2 「よし、分った……(1に) 階下の老人の証言では、少年の『殺してやる!』と言う声を聞いた後、人が倒れる音がした。不審に思つてドアを開けると階段を逃げて行く奴の姿が見えた。これはどうなんだ?」

4 「老人が見たのは本当に少年だったんでしょうか? それに天井越しに声が聞こえますか?」

3 「暑い夜だったから窓が開いてたとしたら?」

4 「しかし、その叫び声が少年の声だったかどうか聞き分けるのは難しいんじゃないんですか?」

3 「何故?! 向かいの女性の証言があるでしょう。車両の窓越しに少年が父親を刺すのを見た。それで十分でしょ」

4 「いいえ」

1 「何か確信があるなら言つて下さ」

4 「高架鉄道がある一点を通り過ぎる時間は? ああ、一点と言うのは殺人が起きた部屋です」

1 「何か関係があるんですか?」

4 「何秒だと思います、電車が通過する時間です?」

1 「ああ?」

4 「(3に) 分ります?」

3 「7、8秒ぐらいじゃないの?」

4 「そう、約8秒弱かかります」

2 「何のゲームだ？」

4 「いいですか、6両の電車が、ある一点を、殺人現場の部屋を通過するのに約8秒弱……線路際に住んだ経験のある方はいますか？」

3 「以前、高架鉄道を見下ろす部屋に住んでいたけど」

4 「電車が通過する時に他の音は聞こえましたか？」

3 「何も聞こえないよ。電車の音がうるさくてさ」

4 「二つの証言を結び付けます。第一、階下に住んでいる老人が『殺してやる』という叫び声を聞いた直後、人が倒れる音を聞いている」

1 「ええ」

4 「第二に、向かいの女性は窓の外を見ていて、最後の2両越しに殺人を目撃した」

3 「それがどうしたって言うの？」

4 「最後の二両越しに殺人を見たなら、倒れた時、電車はちょうど通過中だった。いいですか、老人は少年の『殺してやる、と言う叫び声の直後に人の倒れる音を聞いた』と証言しています……電車の通過中では不可能だと思いますが」

2 「大声で叫んだんだよ！」

3 「無理(です)よ。テレビのボリュームいっぱいに上げたって聞こえないんだから(も)の」

2 「爺さんは確かに聞いたんだよ、だからドアまで走って行って少年を見たんだ」

3 「待って“爺さんが走った”？」

Bits  
7

1 「どうしたんですか？」

3 「もし、もしも……ですよ、あの老人が嘘をついていたとしたら……」

1 「嘘?!」

2 「何だ急に?!」

3 「老人の足取りを覚えていますか？ 老人はゆ・つ・くりと証言台へあがった。そう、左足が不自由なのを人前で隠そうとしてね」

1 「足が何だって」

3 「足をね、少し引き摺っていたんだよ。気が付かなかったですか？ そう、こんな風に(と、足を引き摺る)」

1 「思い浮かべ」確かに」

3 「老人は身体が不自由な事を恥ずかしいと思っていたんじゃないでしょうか？」

4 「(一瞬考えて) やりましょう」

1 「何をですか？」

4 「脳卒中で足の不自由な老人が15秒でベッドから玄関まで行けるか実際に試してみましよう」

2 「20秒だよ」

1 「いや、15秒と自慢げに言っていました！」

2 「もうろくしている爺さんだ、信用できるか！」

一同、2を見る。

2、バツの悪い顔。

Bits  
8

4、ポケットから手帖を出し、

「ベッドから寝室のドアまで3.6メートル、廊下から階段のドアまで13メートル、合計16.6メートル。これを15秒で歩けるか？」

2 「歩けるだろ」

4 「老人にしては長い距離です。ここがベッドの位置。(1が立つ、4歩いて)ここが寝室のドア。(3が立つ)廊下を測ります」

2 「何をやるつもりだ？」

4 「時間を計ります……玄関の位置はここ。チェーンがかかっていた。秒針付きの時計を持っている方は？」

1 「私が……」

4、ベッドの位置に着き、

4 「ではいつでもいいですから、合図をして下さい」

1、時計を見つめている。

1 「どうぞー！」

4 「ベッドから起き上がる」

4、ベッドから老人が起き上がる動作をして、足を引きずり歩き出す。

1 「5秒経過」

2 「もっと早く歩いてたぞ」



4、少しスピードをあげる。

1 「10秒経過」

1は15秒を過ぎてしまったのでそこで立ち止まる。

4、ドアの位置まで来て止まり、

「ドアチェーンを外す、ドアを開ける、ストップ。時間は？」

1 「41秒です」

2 「……?!」

3 「あの老人が嘘をついた?! いや、事件を知って、少年の声を聞き、人が倒れる音がしたと、思い込んだ。(1に) 倍審長、無罪に変える」

2 「なにー?!」

1 「9対3になりました」

Bits  
9

3 「確かに法廷の証言では少年は有罪に思えたけど、よくよく考えりゃ、なぜ逮捕されるのに家に帰って来たのかもおかしい」

2 「刺したナイフを取りに帰ったんだよ」

1 「なぜ、現場にナイフを残したんです？」

2 「父親を殺してパニック状態で逃げ出したんだよ」

1 「そんなに慌ててましたか、指紋をふき取る冷静さはあったんですよ」

4 「そこが不思議なんです。もし、少年が犯人なら、何故ナイフを死体に残し、指紋をふき取ったんでしょうか？」

3 「そうですね。ナイフを買った事は、店の主人が知っていますからね」

1 「少年の父親に恨みを持った誰かが……ほら、『文書偽造で服役していた』ってありましたよね。その被害者の誰かが、偶然同じようなナイフで少年の父親を殺し指紋を拭き取った、どうです？ これなら理屈に合う」

3 「恨みではなく強盗だとしたら？」

2 「金があるような家じゃないぜ」

3 「お金以外の値打ちがあるもの？」

2 「そんなものがあつたらとつくに金に換えてるだろう」

1 「ナイフ以外指紋を拭き取った形跡は部屋の何処にもなかったそうです。強盗じゃないです」

3 「手袋をしていたとか？」  
1 「そこなんです。はじめから父親を殺す気なら確かに手袋を用意していた筈です。ところがナイフの指紋を拭き取っている。つまり、計画的ではなく衝動的だったという事です」

Bits 10

2 「衝動的だったとしても、犯人ならナイフの指紋を拭き取るなんてしないさ、持ち帰れば済む事だ」

4 「父親は心臓を刺されています。ナイフを抜くと返り血を浴びます」

3 「そうだよ」

4 「犯人はその事を知っていた。血だらけの服装で街を歩けません」

2 「それは、少年にも言える事だ！」

4 「ナイフの名人の少年が犯人なら、ナイフを抜き取っていました」

2 「どういことだ？」

4 「ナイフを抜く時、布を傷口に当てれば返り血は浴びません」

2 「ほう、さすがスラム出身だな。だがな、ガキは父親を刺したてパニック状態だったんだ。奴は無意識にナイフの指紋を拭き取って逃げ出したんだ！」

4 「確かに、少年はパニック状態だったかもしれませんが。向かいの女性の証言では、殺害の直後に彼女は悲鳴を上げている。その声を少年が聞いていて、殺人現場を見られたと思った。いや、聞こえなかったのか知れない。少年は咄嗟にナイフの指紋を拭き取ってその場を立ち去った。そして三時間後に気持ちが悪くなり、ナイフを取りに戻った」

2 「その通り！」

4 「(しっかりと)でもそうじゃなかったら」

2 「馬鹿を言え！ 随分ホラ話は聞いた事はあるが、こんな茶番劇ははじめてだ。みんな正義に燃えてこの部屋に入ったのに……どうしたんだ！ あのガキは死刑にすべきなんだよ。電気椅子送りだ！」

3 「ちょっと待って、あなたは死刑執行人か？」

2 「ああ、スイッチは俺が入れてやるよ！」

1 「少年を殺したいだけなんでしょう」

4 「サディストだ！」

「この野郎！」

と、4に襲い掛かろうとする。

1、3が止めに入る。

2 「殺すぞ!!」

一同、2を見る。

4 「微笑笑」まさか、本気じゃないでしょ?」

2、4を睨みつける。

Bits  
11

1 「みなさん! みなさんは争うためにここへ来た訳ではない筈です。郵便の告知でここに来た。決めるために……評決で私たちに損もありません。これが私たちの強みです……私情を交えてはいけないと思います」

3 「……どうです、また投票しませんか?」

1 「そうしましょう、用紙を……」

3 「口頭で投票しましょうよ、その方が立場がはっきりする」

1 「いいでしょう、反対の方は……」

一同、異存がないようである。

1 「(頷き)では私から……無罪……(居るであろう人に)あなたは? 有罪……あなたは?

……無罪……(2に) あなたは?」

2 「有罪!」

1 「(居るであろう人に) あなたは? (次、3に) あなたは?」

3 「もちろん無罪」

1 「分かりました、6対6です」

1 「(4に)ひとつ疑問なのは、犯行時間に観ていたはずの映画を少年は思い出せなかった  
ことですよ」

4 「彼の立場として、思い出せますかね。父親と大喧嘩をして殴られた後ですよ、しかも  
警察の尋問は父親の死体のある寢室でおこなわれたんです」  
じんもん

3 「しかし、法廷では映画の内容を言っていましたよ」

2 「弁護士の入れ知恵だよ、俺は犯行直後の尋問を信じるね」

4 「……」

一同、黙る。

Bits  
12

- 1 「ちょっと、ナイフを……」
- 1、ナイフを手に取り、
- 1 「もう一つ、気になったんですが……刺し傷は下に向かって付いていたんですね……少年は167・5センチ、父親は185センチ、その差は17.5センチ。それだけ身長差のある人を上から刺せますか？」
- 2 「ふん！ 何も知らねえ奴だな。映画でもテレビでもしょっちゅうやってるよ。再現してやるからナイフを貸せ」
- 2、ナイフを受け取ると4に近づき、

- 2 「いいか、ナイフはこう握るんだ。(逆手に握り) 父親と奴の差は？」
- 1 「17.5センチ」

- 2、4の身長に合わせて低くなる。
- 2 「これくらいか、よく見てろよ……安心しろ、刺したりはしねえよ。こうだ！」

- 2、4の胸にナイフを突き刺す仕種をする。
- 2 「背の差なんて関係ねえ、下向きになってるだろ、納得したか」

- 4 「納得しませんね」
- 2、4を睨む。

- 4 「みなさんナイフの喧嘩を見たことがありますか？ わたしは何度も見ています。スラム出身ですからね。街では名物でしたよ。(2に) ナイフを貸して貰えますか？」

2、渋々ナイフを4に渡す。

- 4 「ナイフはこうは構えない」
- 4、2がやった逆手から包丁を握るように持ち替え一同に見せる。

- 4 「こう握ったものを、こうすると、(逆手にする) 時間がかかり過ぎます……(持ち替え) こう持ったら、このまま……スウツ！」

4、ナイフの突きあげる。

- 4 「こうやるんです。少年はナイフの名人……でしたよね」

Bits  
13

- 2 「……よし、分かったもうウンザリだ。俺も無罪！」
- 1 「ちよつと待って下さい。答えになってませんよ。あんたは一体どんな人なんです？ あなたは一貫して有罪を主張して来た。ところが今度は“ウンザリ”だから無罪に変え

る？ 人の命を弄ぶ権利はあなたにはない！ 無罪と言うのなら、無罪だと本当に納得してから票の行方を変えて下さい。有罪だと思っただけならそのままに、有罪か無罪かどっちならんですか？」

2、1を暫く睨み、

「……有罪」

1 「何故?！」

2 「何故も糞もねえ、奴は有罪なんだよ」

4 「……投票しませんか？」

1 「……分かりました」

1、一同を見渡し、

1 「無罪の人は手を挙げて……1、2、3、4、5、6、7、8」

1、も手を挙げて、

1 「9……有罪の人は……（いるであろう人に）1、2」

2、手をあげない。

一同の視線が2に集まる。

1、改めて2に……、

「……有罪の人は？」

2、手を挙げる。

4 「……偏見抜きで物事を考える事は難しいです。偏見で真実がぼやけてしまふ。真実は永遠に分からないかもしれません。しかし、九人が被告を無罪と思っている。でも、間違っているかもしれません。犯罪者を釈放しようとしているのかもしれない。三人の方にお聞きしたい。なぜ有罪だと確信を持てるんですか？ (2に) あなたからお聞きし

たい。何故、確信を……」

2 「いいか、女が見てるんだよ。それが証拠だ！」

2、4に怒りの眼を向けるが、顔を反らし、メガネを外すと目の付け根辺りをさすり出す。

Bits  
14

3 「……ちよつと……そつだ?！」

4 「どうしました?！」

3 「(2に) ちよつとあなたにお聞きしたいんですが」

- 2 「何だ？」
- 3 「……何故そんな風に鼻をこするんですか？」
- 2 「気になるからだ」
- 3 「メガネのせいですか？」
- 2 「そうだよ、もったいいか」
- 3 「みなさん、思い出して下さい。目撃者の女性ですが……あの方も法廷で何度も鼻をこすっていましたね」
- 4 「確かに、何度もね……それが？」
- 3 「彼女は60幾つとか言っていましたね」
- 1 「5です、65歳」
- 3 「公おおやひの場に出るので若作りをしていた。そう思いませんか？ 厚化粧で髪も染め、服装も若い女性が着るような物だった。メガネを掛けるのが恥ずかしかったんでしょね……
- …そうですよ」
- 1 「だとすると、彼女には我々の顔もハッキリと見えていなかった」
- 3 「ことになりました」
- 2 「鼻をこすっていたからってメガネとは限らんだろうが」
- 1 「いや、あれはメガネの跡ですよ」
- 3 「メガネ以外にそんな跡が付きます？」
- 2 「分かったメガネの跡だとしよう。いいか、若く見せたくて、外出の時は掛けなかったとしよう。しかし殺しを見たときは一人で家に居たんだ。若ぶる必要なんかないだろう」
- 4 「確かに一人でいる時は、若ぶらなくていい。しかし寝ようとしている時ですよ？」
- 1 「メガネをかけて寝る人はいないでしょう」
- 4 「もちろん外していた」
- 2 「何故分かる」
- 4 「推測すいそくです……彼女は『何気なく外を見た』。メガネは外していただけでしょう。外を見たるとたん殺人が起きた。メガネを掛ける余裕はありませんよね。彼女が見たという少年はぼやけて見えてた筈です」
- 2 「何故そんなことが分かるだよ。彼女は遠視だったとしたら、サングラスの跡かもしれないだろ」
- 1 「たとえ、遠視だとしても、18メートルも離れている人間を夜間に確認できるなんて、

「そんな人がいますか？」

4 「居るであろう人物に」 どうです、これでも少年は有罪ですか？ ……分かりました。

(別の居るであろう人物に) あなたは？ (頷く)

1 「……これで無罪は十一です」

4 「(2に) 有罪は、あなた一人だ」

じつと仔細、2。

一同の視線が2に注がれる。

息が詰まるほどの間……。

「……無罪」

C・O

完  
2019/03/31/sun